

岩手よもっと
元気になれ!

(財)いわて産業振興センター広報誌

産業情報 いわて

Vol.
88



CLOSEUP
岩手力!

有限会社吉成食品工業

第1回いわて希望ファンド採択企業

募集

チャレンジ・ショップ募集

第5回いわてビジネスプラングランプリ参加者募集

いわて希望ファンド地域活性化支援事業

いわて農商連携ファンド地域活性化支援事業

お知らせ

設備貸与制度のご案内
下請かけこみ寺

第13回機械要素技術展共同出展報告

GLOSEUP

岩手力!

第1回いわて希望ファンド採択企業
有限会社吉成食品工業



職場の壁には「私たちは郷の食文化を守り、郷の資源から新しく創造し、伝承してまいります」の標語が掲げている

人々の飽くことなき美味への
欲求に応えるため、海に里に街に、
新しい味覚を追い続ける。

それまでの家内工業的な経営から海外市場をも視野に入れた企業に脱皮を図ろうとする吉成食品工業。大手、中小、内外メーカーを含めて熾烈な競争をくり広げる食品市場の中で、ひと味ふた味違った商品開発で活路を探る。

新しい味の創造

イカくちの味付けから揚げ、ホタテのひもとアカモクの塩風味漬け、ホタテ入り春巻き…。聞くだけでも口の中がジンワリしてくるような商品名。これは、吉成食品工業の最近の商品サイト人気ランキング上位3品だ。

イカくち、ホタテのひも、春巻き、どれをとっても家庭でも食べられているふつうの食品だが、そこにひと味ふた味加えているところが同社商品の特徴。

「なにしろ後発ですから、いろいろ工夫をしなければなりません」（小向利夫社長）

どこの店の食品売り場もおびただしい数の商品がひしめき合う。大手、中小、国内外メーカー入り乱れての販売競争。その中で自社商品を消費者の買い物カゴに入れてもらうには相応の努力、工夫が要る。目新しさ、おいしさへの期待感、安全安心感、そして値ごろ感など、さまざまな要素を満足させなければならない。

ここでの小向社長の戦略は、ひたすら生鮮市場、スーパー、産直、外食を見て回る。そして珍しいものがあれば買い求め、食べてみる。今の日本人の味覚は大手メーカーがつくる味に慣らされているという。それに合わせてつくれば間違いはないが、目立つこともない。そこにどう工夫を加えて消費者の感心を引くか、日夜考え続けている。

「大事なことは、家庭で毎日食べられているさまざまな食品を工夫して、よりおいしい味で皆さんに選んでいただくということです」

おいしいだけならどうにでもつくれるが、

企業としてはコストのことも生産量のことも考えなければならない。そのために足を使い、自らの味覚を頼りにしての市場調査は欠かせない。

支援制度を求めて

吉成食品工業の創業は昭和51年。小向社長がそれまでの水産会社を整理し、事業転換を図った。最初の事業が焼き鳥で、これが今も事業の柱。岩手県北地方は鶏の生産地で材料が豊富だったこともあり、焼き鳥を選んだ。魚は昭和40年代後半にかけて急激に獲れなくなっていたので扱わなかった。以来30年あまり、家内工業的に事業が続いた。

「30年ほど眠ってしまって、あるとき目が醒めました」

眠っていた、と言うのは、町内会長、定置網組合長、PTA会長などいくつかの役職を務め、家業を省みなかったという意味。それから心機一転、公職を一切退いて家業に専念、業容拡大を目指した。



メイン商品の焼き鳥では銘柄鶏の貴重な部位を使った高級品も扱う



イカのくちの味付けから揚げ、ホタテ入り春巻、ホタテのひもとアカモクの珍味…。アイデア性に富んだ商品の数々。パッケージめしたアカモクも人気

「もともと力が弱いですから、手立てを求めているいろいろたずね歩きました」

いわて希望ファンドの第1回目の助成金を活用して新素材の研究や市場調査を行った。新工場設立に向けての資金や後継者問題などでも相談に出向いた。県の支援で中国大連商談会にも出展する、と労を厭わない。09年3月には、経営革新計画を策定し県知事から承認を受けた。「アカモク」との出会い、いわて希望ファンド審査会の会場だった。いわて産業振興センターのコーディネーターから山田湾でアカモクの商品化を試みている高橋清隆さんを紹介された。アカモクはギバサとも呼ばれるフノリに似た海藻。養殖棚のロープに絡まるやっかいもので、県内では食習慣がなかったが、秋田県南部から日本海沿岸地域、西日本などでは古くから食用にされてきた。近年、抗ガン作用やエイズ、新型ウイルスの増殖を抑制する成分を含んでいるという研究成果が発表され、一躍脚光を浴びた食材。栄養補助食品に使われたり、鉄分やカルシウムを多く含む健康食品という触れ込みで、コンビニなどでも販売されるようになっていく。

小向社長は富山大学に足を運び、アカモク研究の権威、林利光教授からその薬効などをたずねた。そして、山田湾の高橋さん



らとともに「深緑の超(スーパー) 海藻三陸あかもく」を商品化した。

障がい者に働く場を

小向社長は今、事業に追い風を感じている。関東地域で食品加工会社の閉鎖が相次いでおり、輸入食品や食品偽装の問題から、メーカーやスーパーなどが東北地方に仕入れ先を求めているからだ。同社の出荷先も7割が関東地域。

現在、本社工場のほか、久慈市内、洋野町と野田村に工場を持ち、青森県階上町に関連会社がある。従業員は約100名(階上町除き)。

「今、県北地域の雇用は最悪です。1人でも多くの人に働く場を提供できれば」と小向社長。病の後遺症で手足に障がいを持ったことから、これからは障がいを持つ人たちの雇用に力を入れたいと言う。

「障がい者で鬱になる人が多いと言います。働くことが一つの救いになれば。

障がい者雇用が私に与えられた最後の仕事だと思っています」



加熱してすぐ食べられる2次加工品のウエイトをこれから高めていく



企業概要

- 創業 1976年
- 代表取締役 小向 利夫
- 資本金 1,000万円
- 事業内容 食肉の一次・二次加工/水産物加工
- 従業員数 100名
- 所在地
 - 〈本社〉
久慈市侍浜町横沼9-38
電話 0194-58-2151
 - 〈宇部工場〉
久慈市宇部町8-27-1
〈種市工場〉
洋野町種市24-158-6
 - 〈野田工場〉
野田村大字玉川5-104-116
- 関連会社
 - 〈有限会社晶栄フード〉
青森県階上町大字道仏字耳ヶ吠6-71

URL
<http://yoshinaari.dc.shopserve.jp/>

今月の表紙 / 生産現場を支える女性社員の皆さんに侍浜の漁港に出向いて撮影。向かって右から、小袖洋子さんは入社してまだ3カ月「毎日が精一杯です!」。桑田美江子さんは入社1年で「仕事がようやく身についてきた感じ」。小向千登世さんも入社1年ちょっとで「毎日楽しくやってま〜す」。大西敏子さんは入社4年目、会社でつくっている商品すべてがわかるベテラン。いずれも地元の元氣なお母さんたちだ

小向利夫代表取締役
昭和10年生まれ。半農半漁の家に生まれ育ち、若い頃は北洋にサケマスを追った海の男。農業生産者でもあり、海のもの山のものを知り尽くしている。豊富な地域食材を使った、新しい食べ方、新しい味を追い求める。病の後遺症で身体が不自由になったことで「逆に経営者としてのスイッチが入った」。商品開発、中国市場への事業展開、障がいを持つ人たちの雇用拡大と、大きな課題を抱えて、行政機関や研究機関を精力的に回る。



いわて希望ファンド 地域活性化支援事業

県内中小企業等の革新的・個性的な取組みにより地域経済の活性化を図るため、創業、経営革新に向けた取組みについて助成金の交付と専門家の派遣等のソフト支援によって総合的に支援します。

事業メニュー

〈起業・新事業活動支援事業〉

創業・起業や経営の革新に資する中小企業等の以下の取組みを支援

～市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発又は事業化、販路開拓、人材養成等～

【対象者】・創業する者

- ・中小企業者(法人又は個人事業者)
- ・特定非営利活動法人(NPO)、農事組合法人等(地域資源活用枠のみ)

①地域資源活用枠

「地域資源」(農林水産物、鉱工業品又はその生産技術、文化財や温泉等の観光資源など)を活用する事業

【助成率】1/2

(大船渡、釜石、宮古、久慈及び二戸振興局管内の者が同地域で取組む事業は2/3)

【助成限度額】200万円【助成期間】最長3年以内(原則単年度)

②起業・経営革新枠

創業者(創業・起業から3年以内)が取り組む事業又は経営革新計画の承認を受けた事業

【助成率】1/2 【助成限度額】500万円

【助成期間】最長3年以内(原則単年度)

〈中心市街地活性化支援事業〉

中心市街地や商店街の活性化に向けての革新的な以下の取組みを支援

～市場調査・動向調査、新商品・新役務の開発又は企業化、販売促進・販売力強化、業種構成再編・遊休資産活用～

【対象者】・中心市街地の活性化に関する法律第15条第1項各号に掲げる者

- ・小売・サービス業を営む県内に住所のある中小企業者(法人又は個人事業者)
- ・商工会、商工会議所
- ・知事が適当と認める特定非営利活動法人(NPO)

【助成率】9/10

(店舗賃借料については、「店舗賃借料/月×月数(助成対象期間×1/3)の算式によって算出された額の9/10」)

【助成限度額】200万円

【助成期間】最長3年以内(原則単年度)

第4回いわて希望ファンド地域活性化支援事業採択企業決定

第4回いわて希望ファンド地域活性化事業には、18件の申し込みがありました。

その内訳は、起業・新事業活動支援事業の地域資源活用枠が4件、起業・経営革新枠9件、中心市街地活性化支援事業が3件、支援機関事業2件でした。

5月13日に開催された外部委員における審査会において、下記14件の事業が採択されました。

第5回公募のご活用・ご検討をお願いします。

【採択案件】

No	事業種類	企業名	所在地	事業概要
1	地域資源	岩手県酒造組合	盛岡市	県産オリジナル吟醸酒の首都圏における販路拡大キャンペーンの実施
2		株式会社夢実堂	二戸市	農業者ネットワークの構築による岩手県産農産物の流通拡大
3		有限会社早野商店	岩泉町	食用ほおずきの栽培委託と加工・販売
4	経営革新	株式会社リエゾンパブリッシング	盛岡市	自費出版者向けコミュニティーポータルサイトを活用した自費出版事業
5		株式会社アイカムス・ラボ	盛岡市	不思議遊星歯車を用いたマイクロシリンジの開発と事業化
6		株式会社奈良屋	一関市	「見えるリフォーム」を実行し、ホームドクターとして住まいに関する安心を提供
7		株式会社アリメント	矢巾町	食肉製品の新品開発及び液体凍結機を利用した商品提供
8	起業	浄法寺漆産業	盛岡市	「浄法寺漆」の付加価値化(精製加工、販売)と市場開拓
9		株式会社心食飲	北上市	岩手食製品プロデュース会社の設立
10	中心市街地活性化	まちの編集室 有限責任事業組合	滝沢村	いわての「ものづくり」「まちの文化」などに特化した提案型ムック誌出版と連動した販売展開事業
11		株式会社邑計画事務所	盛岡市	街なかの馬車運行による中心街地の新たな魅力創出と来街者増大～幸せ運ぶ馬車～
12		NPO法人レスパイトハウス・ハンズ	一関市	空き店舗を利用したソーシャルビジネスによる中心市街地多目的スペースの開設
13	支援機関	岩手県中小企業団体中央会	盛岡市	観光産業クラスター形成による提案型観光の強化・促進について
14		財団法人いわて産業振興センター	盛岡市	①助成先に対するソフト支援事業 ②起業・新事業展開意欲醸成事業 ③中小企業等試験販売支援事業

商工連携ファンド公募中です!!

募中
1(火)
で

いわて農商工連携ファンド 地域活性化支援事業

本県の地域経済の重要な担い手である農林水産業と中小企業者との連携(農商工等連携)を強化し、相乗効果を発揮していくことで地域経済の活性化を図るため、中小企業者と農林漁業者の連携体が行う創業や新たな事業展開等への支援を行います。

起業・新事業活動支援事業

創業者又は経営の革新を行う中小企業者と農林漁業者の連携体を支援します。

対象者

- ・ 県内の中小企業者と農林漁業者の連携体
→農林漁業者とは、農業、林業、漁業を行うもの及びこれらの組織する団体(農協、森林組合、漁協、連合会も可)
- ・ 中小企業者以外で、県内の特定非営利活動法人等と農林漁業者の連携体
注) 申請は、中小企業者と農林漁業者の連名で行い、どちらか一方を代表者と定め、センターとの連絡・補助金の受領等を行う

助成対象経費

市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発又は事業化、販路開拓、人材養成等

助成率

1/2以内(県北・沿岸地区は2/3以内)

助成限度額

500万円

助成期間

最長3年以内(原則単年度)

農商工連携の事例

イサダ煎餅の事例

中小企業者(煎餅メーカー)

イサダには、レチノール(ビタミンA)、カルシウム、たんぱく質、マグネシウムなどが多く含まれており、イサダの食味を引き出した新商品の開発を行う

農林漁業者(漁業者)

これまで主に養殖魚の餌として用いられていたイサダを加工食品に用いるため、イサダの鮮度管理、衛生管理方法の確立を行う



連携

新商品開発!

それぞれが工夫を凝らした取組み!

農商工連携の基本的要件

【1.有機的連携】 中小企業者と農林漁業者が有機的に連携し、それぞれの経営資源を有効に活用すること

- 「有機的連携」とは、通常の事業範囲を超えて両者が連携することを指します
- 「経営資源を有効に活用」とは、両者の有する設備、技術、個人の有する知識及び技能その他ビジネスノウハウ、知的財産等が、本事業を実施するために具体的にかつ有効に用いられていることを指します。

【2.新商品の開発等】 事業により、新商品若しくは新役務の開発、生産又は需要の開拓が実現すること

- 「新商品若しくは新役務(サービス)」とは、事業実施主体にとって、これまでに開発、生産したことのない新たな商品又は役務であることが必要である。

第1回いわて農商工連携ファンド地域活性化支援事業採択企業決定

いわて農商工連携ファンド地域活性化事業の第1回公募では5件の申し込みがありました。その内訳は、企業・新事業活動支援事業枠が3件、支援機関による支援事業が2件でした。5月13日開催された外部委員における審査委員会において、下記4件の事業が採択されました。

【採択案件】

No	事業種類	代表企業	連携企業等	所在地	事業内容
1	起業・新事業活動等	株式会社三研ソイル	八幡平市北村宮農組	八幡平市	土壌に最適な有機質肥料の開発製造と有機質肥料を活用した農産物の生産
2		株式会社夢実堂	株式会社夢実のファーム	二戸市	ベビーリーフの生産拡大と高機能性野菜(グレートベビーリーフ)開発による新市場の創造
3	支援機関	地方独立行政法人岩手県工業技術センター	-	盛岡市	現場展開型農商工連携商品戦略個別セミナーの実施
4		財団法人いわて産業振興センター	-	盛岡市	助成先に対するソフト支援事業

手続きの流れ

- ①公募→②応募(助成金交付要望書提出)→③事業計画ヒアリング→④審査委員会(対象事業の決定)→⑤採択通知→⑥助成金交付申請書提出→⑦助成金交付決定→⑧交付決定通知→⑨事業実施(着手)→⑩フォローアップ→⑪実施事業の確認→⑫助成金の支払い(※原則事業完了後の精算払い)→⑬実施事業の評価

お問い合わせ先

助いわて産業振興センター 新事業・研究開発支援グループ
 いわて希望ファンド 担当/菊池修二
 いわて農商工連携ファンド 担当/漆田英一
 TEL.019-631-3827 FAX.019-631-3830 E-mail:joho@joho-iwate.or.jp

チャレンジ・ショップ募集

盛岡地区であなたの商品を試験販売し、手応えを確かめてみませんか？

期間 平成21年6月～平成22年2月末

場所 イオン盛岡南ショッピングセンター「いわて活菜横丁・結いの市」
内チャレンジ・スペース

事業対象者

- 中小企業支援法第2条に規定する中小企業者
- 岩手県内において創業しようとする個人及びグループ
- 農林水産物及びその加工品の生産者等
- その他、(財)いわて産業振興センターが適当と認める者

使用可能面積 5m×3.2m

出店限度日数 7日間まで(事業者あたり)

主催 (財)いわて産業振興センター

後援 岩手県、岩手県商工会議所連合会、
岩手県商工会連合会、岩手県中小企業団体中央会



詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.joho-iwate.or.jp/challengeshop/>

お問い合わせ先 空き日程の確認：社団法人遠野ふるさと公社(チャレンジ・スペース管理者)
担当/佐藤 TEL.019-631-3137
チャレンジ・ショップ申込：(財)いわて産業振興センター 総合支援グループ
担当/長谷川 TEL.019-631-3826

設備貸与制度のご案内

中小企業の方が導入する機械設備を、当センターが購入し、長期・低利で割賦販売する制度です

割 賦

- 貸付額 100～10,000万円
- 貸付期間 最長10年返済
- 利 率 年利2.3%(固定)
- 担 保 無担保・保証協会の保証不要

リース

- 設備額 100～6,000万円
- リース期間 5年又は7年
- リース料(月額) 5年リース 設備額の1.860%
7年リース 設備額の1.382%

機械設備、運搬用車両、建設機械などの購入を検討されている方！
借入利息、割賦販売額、リース料の比較検討をお願いします！
電話をいただければ、返済額を試算した資料をお送りいたします！

明日のために、
いま始めよう！



お問い合わせ先
(財)いわて産業振興センター
総務・金融グループ TEL.019-631-3821

第13回機械要素技術展共同出展報告

平成21年6月24日から26日の3日間、東京都のビッグサイトで機械要素と機械材料・加工技術などの主要企業が一堂に集結する第13回「機械要素技術展」が開催され、岩手県内の企業9社の出展支援を行いました。

この展示会は日本最大級の集客力を誇り、製造業の設計技術者、研究開発者、生産技術者、購買・資材担当者など多数の来場者があり、今回は3日間で延べ75,266人（24日23,433人、25日24,451人、26日27,382人）の来場者を数え、会場のいたるところで名刺交換や具体的商談が行われました。

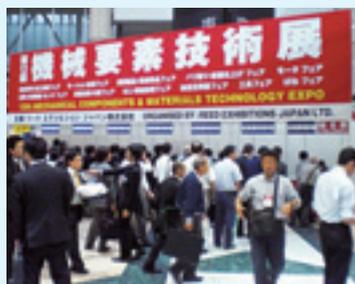
100年に一度の未曾有の経済危機と言われている状況下ではありましたが、全体で過去最大の約1,600社の出展があり、出展者同士のいわゆるBtoBでの商談も数多く行われました。

岩手県からの出展は、10小間を使って自社の製品、技術等を工夫を凝らして展示し、具体的な商談も活発に行われ、9社の出展者の皆様はかなりの手応えを感じたようでした。

いわて産業振興センターとして今年で4年目の出展でしたが、毎年度出展された企業の皆様の取引成約率が高いことから、平成22年度も今年度と同規模の出展を予定しております。

出展企業一覧（五十音順）

	企業名
1	株式会社エツリコエンジニアリング
2	株式会社小林精機
3	有限会社ジーエフトップ
4	有限会社青匠回路設計
5	株式会社千田精密工業
6	株式会社テツニックス
7	野村産業株式会社
8	盛岡セイコー工業株式会社
9	和同産業株式会社



お問い合わせ先

出展に興味がありましたらば TEL.019-631-3822（育成支援グループ）
までお問い合わせください。

取引上のお困りごと、ご相談ください。

下請かけこみ寺

弁護士無料相談実施中！

弁護士無料相談事業を実施しています。お気軽にご相談ください。

かけこみ寺・移動相談所（7月・8月の開催予定）

【二戸会場】	二戸広域観光物産センターなにかやと3階	7月22日（水）13:00～15:00
【久慈会場】	久慈商工会議所	7月23日（木）10:00～12:00
【一関会場】	（財）岩手県南技術研究センター	8月11日（火）13:00～15:00
【宮古会場】	宮古地方振興局	8月26日（水）10:30～13:00

下請かけこみ寺・弁護士無料相談のお問い合わせ先

育成支援グループ 担当/伊藤・村上 TEL.019-631-3822 E-mail:joho@joho-iwate.or.jp



(財)いわて産業振興センターでは、新たな事業の創出とその発展を図るため、第5回いわてビジネスプラングランプリを開催します。このビジネスプラングランプリでは、新しい独自のビジネスプランを募集しております。新規・独自性、市場性、社会貢献度等を評価し審査の結果、優秀と認められるビジネスプランを発表された方に部門ごとにグランプリとして50万円を助成し、ビジネスプラン実現に向けバックアップします。

なお、高校生部門については30万円の教材を贈呈します。

IWATE Business plan Grandprix 第5回いわてビジネスプラングランプリ 賞金50万円

募集期間 平成21年7月1日(水)～9月7日(月)

応募資格 [スタートアップ部門] ●県内で1年以内に創業を目指している方、若しくは県内において創業(個人・法人問わず)後3年未満の方で新技術やビジネスアイデアにより事業展開を図っている方。
[イノベーション部門] ●県内で創業後3年以上を経過し、新商品開発や新サービス開発等の新事業展開により事業革新を図っている方。
[高校生部門] ●県内の高等学校・高等専門学校であり、地域活性化のビジネスアイデアを有している教育機関。
(応募は、申込み単位は学校単位。1校につき最大2グループのエントリーを可能とします。)

主催 財団法人いわて産業振興センター

共催 いわて起業家サポーターネットワーク会議構成機関【岩手県、岩手県商工会議所連合会、岩手県商工会連合会、岩手県中小企業団体中央会、国立大学法人岩手大学地域連携推進センター、公立大学法人岩手県立大学地域連携研究センター、フューチャーベンチャーキャピタル(株)岩手事務所】岩手県教育委員会

後援 (財)岩手県南技術研究センター、(財)釜石・大槌地域産業育成センター、(株)北上オフィスプラザ、花巻市起業化支援センター、宮古市産業支援センター、盛岡市産業支援センター (五十音順)

応募・問い合わせ 〒020-0852 盛岡市飯岡新田3-35-2
財団法人いわて産業振興センター 新事業・研究開発支援グループ 担当/山根・菅原
TEL.019-631-3825 FAX.019-631-3830 URL <http://www.joho-iwate.or.jp>



新ビジネスのための種と水やり

新事業・研究開発支援グループ
漆田 英一

配慮した「もったいない」という発想(水やり)こそビジネスチャンスにつながる可能性が秘められているのかもしれない。

当センターでは、県内中小企業等の新商品開発や新たな市場開拓により、新規事業化につなげられるよう、希望ファンド・農工商連携ファンド助成事業などを活用して、応援・支援いたします。

雇用不安の続く先行きの見えにくい経済不況の中、新たな農林水産業を活用したビジネスや企業の農業参入拡大を図る改正農地法の成立など、農林水産業に企業の販売力やノウハウを生かす「農工商連携」が注目されています。

6月にNHKの番組で取り上げられた農業経営者・木内氏の言葉には新規ビジネスへのヒントがふたつあったと感じました。

ひとつめは、「常識」を疑うこと。木内氏は、30代前半の若い農業者100名でグループを設立し、現在は年間売上1億円を越える人までいますが、本当に今やっていることが正しいのか、もっと良い手段はないのか、という出発点から日々模索しながら、きっかけ(種)を見つけてきたようでした。

ふたつめは、古き良き日本にはあった「もったいない」という気持ち。廃棄していた規格外野菜をカットして付加価値を高め、商品開発に取り組んでいました。環境にも